

真夏のひまわり畑と、懐かしい宿場町の風景も。

# 佐用へ

鮮やかな黄色が目まぶしい、一面のひまわりに感激！

## 佐用町南光ひまわり畑

真っ青な夏空に、黄色が映える。ひまわり祭りの会場では、ひまわり油など特産品の販売も。最終日の夜に、花火大会も開催される。



問い合わせ/  
☎ 0790-82-2521 (佐用町役場)  
佐用町南光ひまわり祭りは、7/16 (土) ~ 31 (日) 南光スポーツ公園  
▷佐用郡佐用町林崎 839 周辺(林崎、東徳久地区)  
午前8時半~午後5時、入園料200円(中学生以上)、駐車料金500円 そのほかの地区の見ごころはそれぞれ異なる ※天候により開花時期が変更になる場合あり  
詳細はHP参照  
<http://www.town.sayo.lg.jp/>

7月中旬から8月にかけて、旧南光町の6地区の畑に、次々と花を咲かせる大輪のひまわり。のどかな山里を黄色に染めるひまわり畑の中を歩くと、まるで絵画の世界に迷い込んだよう！ 農地を保護し、美しい景観を愛でられるようにと、地元の人たちが協力して栽培を始めたのが1990年のこと。今年は6地区合わせて237ha、約120万本。一電車がすぐ近くを走る宝蔵寺地区、ひまわり迷路をはじめいろいろなイベントが行われる林崎、東徳久地区などそれぞれ趣が異なります。地区ごとに開花時期を少しずつずらしているのも、長い期間楽しんでいたのも魅力。佐用町商工観光課の本種清茂さん。見ごころをチェックし、2度3度と足を運びたい。



定員3名の連棟コテージは1泊8000円。宿泊は午後4時~翌日午前10時、午前10時~午後3時の休憩使用も可(繁忙期、GWは不可)。



コテージA定員6名タイプ、1泊1万5000円の室内。専用のキッチンやお風呂もある。

## 清流と山々に囲まれ、のびのびと自然に触れて。南光自然観察村



ツリハウスの使用に1回4000円。ウッドデッキ止のアウトを張れる。

悠々と流れる千種川のほとりに広がる、町営のアウトドア施設。テントを張って和気あいあいと楽しめるオートキャンプ場や子どもたちに人気のツリハウスのほか、別荘気分が快適に過ごせるコテージやキャビンもあり、思い思いのスタイルで自然を満喫できる。「近くの山から下りてくる鹿や猿を見られることもありますよ」とスタッフ。昼間は川で水遊びや、区画サイト内にある大木の回りにハンモックをつつて鳥のさえずりを聞きながら揺られるのも気持ちいい！ パーベキューはもちろん、薪窯を使う手づくりピッツアや、昔ながらのおくどさんでのごはん飲み体験もでき、澄んだ空気の中で味わうとまた格別。夜は、星空の下、キャンプファイヤーで盛り上がり。



ハンモックの貸し出しは500円。薪で温める水着着用のフィンランド式ヤウナの設備も好評。



千種川から用水路が引かれ、川遊びができる。

▷佐用郡佐用町総館222  
☎0790-77-0160  
いずれの設備も要予約  
利用月の4か月前から電話で予約開始  
予約時間は午前8時半~午後4時半  
休 休 ※年末年始休みあり  
取材・文/大野彩夢 撮影/田野敏朗



夏季限定のサラダ風ひまわりうどん  
700円。ひまわり油が入った手延べう  
どんに地元の野菜がたっぷり。さっ  
ぱりした味わいが夏にぴったり。



ひまわり油 (280g) 1296円、ド  
レッシング (300ml) 715円、ひまわ  
りの手延うどん494円は、カフェの  
サラダ風ひまわりうどんにも使用。

「オレイン酸、ビタミンEが豊富でコ  
レステロールゼロと、体にもいい、ひ  
まわり油をぜひ！」と、梅内克敏館  
長。県道72号沿い。



## ヘルシーで体にやさしい ひまわり油をおみやげに。 南光ひまわり館

千種川のほとりに建つ物産館。こ  
この看板商品は、南光町の夏を彩る  
ひまわりの種からつくる「ひまわり  
油」。 「農薬を使用せずに栽培した  
ひまわりの種を秋に収穫・乾燥し、  
圧搾機で搾ります。不純物を徹底的  
に取り除き、15日間ほどかけてい  
ねいに仕上げた油はクセがなく、ど  
んな料理にも合いますよ」と、館長  
の梅内さん。また、カフェではひま  
わり油を使ったドレッシングが決め  
手のサラダ風  
ひまわりうどん  
やカレーなど  
も。地元の野菜  
やひまわりの種  
入りのアイスク  
リームなど、お  
みやげも充実。



物販コーナー併設の店内。大きな窓  
からは川のせせらぎも眺められ、休  
憩にぴったり。カフェにはひまわり  
コーヒーもあり。

▷佐用郡佐用町船越232-1 ☎0790・77・0766  
午前8時半～午後5時15分 月曜 (祝日の場合は翌  
日) 休み ※7・8月は無休  
＜取材・文／玉利明子 撮影／丸子哲央＞